

第2回 町田市下水道事業審議会 議事要旨

日 時：2025年1月14日（火） 10:00～11:40

場 所：成瀬クリーンセンター 3階 大会議室

出席者：委 員 長岡 委員（会長）、市古 委員（副会長）、

鵜川 委員、大久保 委員、入山 委員、武藤 委員、

勝山 委員、神保 委員

事務局 守田（下水道部長）、西澤（下水道経営総務課長）、

原田（下水道整備課長）、西澤（下水道管理課長）、

松井（水再生センター所長）、布施（水再生センター担当課長）、

小林（水再生センター担当課長）

下水道経営総務課 金子、西山、北原、水村、古賀、小谷

結城、熊谷、中島、高橋、北本、山下

下水道整備課 北原、宮澤、村上

下水道管理課 大植、鈴木

水再生センター 井上、村野、宮川、佐藤、澤田、齊藤、櫻井、宮田

傍聴者： 0名

次 第：（1）開会

（2）議案審議

【議案第1号】「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）の改定について

① 類似・近隣団体との比較分析について（資料1）

② 下水道事業を取り巻く将来推計について（資料2）

③ 投資・財政計画（第1次素案）について

・投資・財政計画表（資料3-1）

・企業債残高と元利償還費の推移（資料3-2）

・事業内容説明（資料3-3）

（3）その他

資 料：事前配布

【資料1】 類似・近隣団体との比較分析（2023年度決算データ）

【資料2】 下水道事業を取り巻く将来推計

【資料3-1】 投資・財政計画（第1次素案） 投資・財政計画表

【資料3-2】 投資・財政計画（第1次素案） 企業債残高と元利償還費の推移

【資料3-3】 投資・財政計画（第1次素案） 事業内容説明

【参考資料】 まちだ下水道通信（No.10）

当日配布

『第2回 町田市下水道事業審議会 次第』
『下水道事業審議会 資料一覧』

(1)【次第1】開会

事務局から会議の成立を報告するとともに、本審議会の進め方について説明を行った。

(2)【次第2】議案審議

議案第1号「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）の改定について審議を行うにあたり、資料1について説明を行った。

■主な質疑応答・意見等

●船橋市の他に町田市と関連する自治体の中で、過去20年位の間に下水道使用料の改定を行った自治体はあるか。また、下水道使用料金の改定における議論で1番重要な論点は何だったか。

⇒比較団体の中では奈良市などが下水道使用料の改定を行っている。

●「4. 汚水処理原価」のグラフでは、使用料単価の方が汚水処理原価よりも高めに設定されている自治体が多い中、船橋市は使用料単価の方が汚水処理原価よりも低く設定されている。市民への説明方法を検討するにあたり、国が示す使用料単価である150円という目標値に近づけていくやり方では少し難しいように思う。船橋市が使用料改定をした際の議論を参考にしているかどうか。

⇒使用料単価を汚水処理原価で割り返したものが「3. 経費回収率」となる。町田市の場合、汚水処理原価123円に対して使用料単価が低いと、経費回収率が100%に満たない状況となっている。使用料を財源とする事業費である「使用料対象経費」がどのくらい必要か精緻に積算した上で、町田市の収益増進策の一つとして下水道使用料の改定も含めた検討を今後行っていくことになる。

●類似・近隣団体との比較分析の表中において、下水道使用料改定の時期を整理していただきたい。

⇒各市の下水道使用料の改定状況については把握しているので、一覧表を掲載する。

●使用料単価などについて今後検討することがあるならば、原価や単価といったざっくりとした金額の比較ではなく、動力費など各市の費目の内訳を細かく分析していただきたい。職員のみなさまにとっても勉強になり、非常に参考になると思う。

⇒調べられる範囲で調べていきたい。

●町田市の下水道使用料は、東京都区部や都内の近隣市と比較しどうか。

⇒東京都下水道局管轄の東京都区部の下水道使用料は、町田市と同じ料金体系を使っている。東京都区部とは人口密度が異なる上、町田市は2箇所の下処理場の維持管理をして

おり、老朽化が進めば更新もしていかなければならない。東京都区部と同じ料金体系では限界があるという議論も出ている。

⇒（追加意見）東京都区部と料金体系は同じだとして、コストがどう違うのか比較されると分かりやすくなるだろう。

⇒（追加意見）東京都区部とは人口密度などの状況が違うという前提を注意書きとして入れた上で、町田市の状況を住民に示すことが重要だと思う。

●奈良市の「有収率」が100%となっており、不明水が全くないと思われる。配管や施設が何か特殊なつくりになっているのかを調べていただけると良いと思う。

⇒不明水に対し、有効な対策があるのか聞いてみたい。

●一般会計繰出金について、市民目線からすると、「基準内」と「基準外」の違いが分かりにくいように思う。「基準内にすると国からの補助金収入が期待できる」のように「基準内」にするメリットが書かれていると理解しやすくなると思う。

⇒改訂版の経営戦略を作成する際、用語説明として対応したい。

続いて、資料2について説明を行った。

■主な質疑応答・意見等

●2021年以降人口が減少するという傾向だが、今も町田市の財政収入は増えている。2021年から2025年のデータについて、予測と現在の人口の推移は合っていたか。間違った予測を基に推計すると、傾向が変わってくると思う。

⇒検証する。

⇒（意見）次回、報告をお願いしたい。

資料3-1・3-2についてまちだ下水道通信（No.10）を使用しながら説明を行った。続いて資料3-3について、説明を行った。

■主な質疑応答・意見等

●下水道通信にある「現預金」という金額は、資料3-1「投資財政計画表」ではどこに表現されているか。また、下水道通信では2025年度の当年度純利益は2.5億円という見込みになっているのに対して、資料3-1では1.58億円になっている。この1億円くらいの幅は想定範囲内か。

⇒下水道通信の収益的収支・資本的収支はバランスシートを示したものではないため、資料3-1とは異なっている。現預金は残高ベースで掲載している。下水道通信には、2025年度の決算見込を掲載しているが、資料3-1の数値は予算ベースであるため、ずれが出ている。

●資料1「2. 流動比率」においても町田市は平均より低い数値となっている。投資・財政計画を作る際、参考資料として現金の流れがわかるようキャッシュフロー計算書があると良い。

⇒次回以降、キャッシュフロー計算書を示すようにする。

●10年間の収支計画書では、累積の赤字が100億円から150億円くらいあることになっている。使用料を2割上げたとしても、10億円くらいしか増えないと思われ、持続可能性はない。「基準内」で国や都から補助金が入ってくるのであればカバーできるが、何も入ってこなければ「基準外」であろうが税金で繰入をしていかないと経営としては成り立っていかないという話になる。今の状況で、どういう考えているか。

⇒収益的収支の費用のところは、例えば労務単価・消耗品・動力費など、一律2%ずつの物価上昇を見込んでいるため、10年間ずっと物価が上がり続けるかという議論をする必要があると思っている。収益的収支の費用の中の修繕費はかなり大きな金額で、下水処理場関連の修繕を制限せず必要な分きちんとやっていくと費用がかかることになるので、計画どおりに進めていくかの検討が必要だと思っている。基本的には基準内繰入については雨水の処理に係る部分に関しては基準内、汚水に関しては使用料できちんと賄っていくべき経費と考えている。可能な限り汚水の処理に関しては税金から補填をしてもらわない状況で経営していきたいと考えている。

●今後資料3-1のような資料で議論する際、前提状況や、収益的収入のところにある雨水処理負担金や長期前受金戻入など、大きく変わっている箇所にコメント記載していただけると議論しやすくなると思うので、対応をお願いしたい。

●資料3-3と資料3-1とのリンクが分かりにくい。「全体の事業量のうち、10年間でこれくらい進めます」というようなボリューム感が書かれていると、資料3とのつながりが見えてくると思う。また管渠のところに書かれているように、今後はコスト縮減についての説明が大事になってくると思う。アピールにもつながると思うので、今後資料を作成する際は、検討していただきたい。

⇒（意見）資料3-3は今後の投資・財政計画を立てる上でどのくらいの金額が必要かということを説明する資料だと思うが、量が分からない。そういう視点で、資料のつながりが分かるように作成していただきたい。

⇒今回の素案では、詳細なことが書かれていなかったもので、次回はより具体化し、案として提示させていただきたい。今回の指摘を踏まえ資料を作成し、より分かりやすく説明していきたい。

●これから使用料改定の話になると思われるが、市民に対しては25年間使用料を上げていなかったという要素も考慮しながら説明していただくようお願いしたい。

（3）【次第3】その他

事務局から、事務連絡を行った。

閉 会